山形大学医学部附属病院からの
お知らせ
NEWS
Autumn 2025
30
発行：2025年11月

● Topics…脳卒中・心臓病等総合支援センター
● 取組案内1…救急科　● 取組案内2…第二内科(胆膵)

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.30が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

脳卒中・心臓病等総合支援センター

令和6年度に設立された「脳卒中・心臓病等総合支援センター」は、山形県と国の認定を受け、県民の健康課題である脳卒中や心臓病に対し、急性期から慢性期、再発予防、社会復帰まで切れ目のない支援を提供する拠点です。患者さんやご家族への相談支援、地域住民への啓発活動、医療従事者向けの研修、地域医療機関との連携を通じて、地域全体の医療水準の向上に取り組んでいます。さらに、急性期を過ぎた患者さんが安心して生活を続けられるよう連携の強化や支援できるよう取り組んでおります。

医療連携:脳卒中チームでは、大学病院が中心となり、総合支援体制の連携を構築し、情報提供や情報交換を行っています。脳卒中相談窓口連携会(ソーシャルワーカー)を開催し、今年度は「両立支援調査への参加や全国調査へのデータ提供と情報共有」に取り組んでおります。循環器チームでは、心臓リハビリ研究会をセンター主催で開催し、ネットワークの整備を進めてまいります。今後とも、各医療機関の皆様のご協力をお願いいたします。

県民への啓発活動と相談窓口:県民の理解を深めるため、健康ハートの日(8月10日)や世界脳卒中デー(10月29日)に合わせて、病院屋上の看板や文翔館のライトアップを通じて視覚的な発信を行い、公開講座も開催しています。これらの講座では「脳卒中を知ろう!」「心筋梗塞は予防できる!治療できる!」などのテーマで実施され、いずれも好評を得ました。令和8年3月に脳卒中チームによる公開講座を予定しています。また、患者や家族が抱える不安や疑問に対応するため、相談窓口を設けています。

今後も、県全体で支援を充実させるためのネットワークづくりを進めていきます。センターの活動にご理解とご活用を賜りますようお願い申し上げます。ホームページ(https://www1.id.yamagata-u.ac.jp/MIDINFO/stroke/)をご覧ください。

2025年6月14日
山形県脳卒中相談窓口連携会

ホームページから

2025年8月10日
病院屋上の病院名のライトアップ(テーマ色は赤色)

□問い合わせ／山形大学医学部附属病院 〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2　TEL 023-633-1122
https://www1.id.yamagata-u.ac.jp/MIDINFO/
山形大学医学部総務課広報担当　TEL 023-628-5872　E-mail yu-isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
バックナンバーはこちらから

取組案内 1 救急科

地域の救急医療の「最後の砦」として頑張っています

私たち山形大学医学部附属病院救急科は、病院の「もう一つの玄関口」として、主に24時間体制で地域の救急医療を担っている救急部と集中治療部門(ICU・HCU)で活動しています。救急搬送される重症患者さんの対応を最優先としながら、夜間・休日を含む時間外診療にも幅広く対応しており、病院全体で年間約3000台の救急車を受け入れています。歩いて来院される患者さんを含めると、年間約8,000人が当院救急部を受診しており、そのうち約40%が入院を必要としています。特に救急搬送の約15%は重症度の高い三次救急に該当し、地域の中核病院として重要な役割を果たしています。

当院救急部は現在、救急科専門医と初期研修医による診療体制をとっており、各診療科のバックアップのもとに運営されています。全科対応を基本とし、緊急度・重症度に応じて迅速に専門診療科と協働するシステムを整備しつつ、救急科が中心となって心肺停止や多発外傷などの初期対応、中毒や重度熱傷患者の全身管理、さらには心停止後患者に対する集中治療室での体温管理療法まで、幅広い救急疾患に対応しています。

また、医育機関として医学生や初期研修医の教育にも注力しており、救急の現場における実践的な指導を通じて、次世代の医療人材を育成し、山形県全体の救急医療水準の向上を目指しています。文字通り地域の救急医療の「最後の砦」として、患者さん一人ひとりに適切かつ迅速な医療を提供することを使命に、日々取り組んでいます。

2025年8月9日に山形テルサで開催した第39回東北救急医学会総会・学術集会にて。東北6県および新潟県の医療関係者700名以上が参加されました。

取組案内 2 第二内科(胆膵)

難治がんに挑む ー 第二内科(胆膵グループ)の取り組み

第二内科(胆膵グループ)では、地域の中核病院として、高度で専門的な医療を提供しています。特に膵臓がん(膵癌)の診療に力を入れており、近年、重粒子線治療が保険適用となったことから、県内外から多くの患者さんが紹介されています。

当科では、「超音波内視鏡(EUS)」という機器を用い、胃や十二指腸から膵臓の腫瘍に直接針を刺して組織を採取する検査を行っています。この検査によって得られた検体は、がん遺伝子パネル検査にも活用され、がんに関係する数十〜数百の遺伝子を一度に調べることで、そのがん特有の遺伝子異常を明らかにします。これにより、患者さんごとに最適な治療法を選ぶことが可能になります。

治療では、手術や抗がん剤に加え、保険適用となった重粒子線治療も行っており、治療の選択肢が広がっています。治療方針は、内科・外科・腫瘍内科・放射線治療科・放射線診断科の医師が週に一度集まり、患者さん一人ひとりにとって最善の方法を検討しています。

また、膵癌だけでなく、胆のうがんや胆管がんなど、診断や治療が難しい疾患にも対応しており、専門的なチーム医療を提供しています。

私たちは、今後も最新の医療技術を積極的に取り入れながら、患者さんに寄り添った医療を提供してまいります。膵臓がんをはじめとする難治がんの診療は、ぜひ当院にご相談ください。

超音波内視鏡を用いて組織を採取しています。